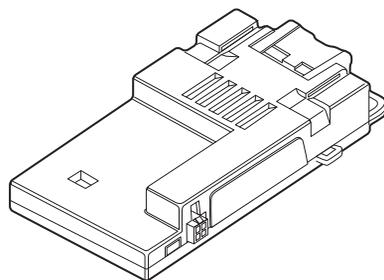


エンジンスターターキット STK-01

取付・取扱説明書（保証書付）



- ☆このたびは、エンジンスターターキットをお買い上げ頂きまして、ありがとうございます。
- ☆本品は当社製Guardog V-1/V-2専用のエンジンスターターキットです。単体でのご使用は出来ません。必ず当社のGuardog V-1またはV-2と併せてご使用下さい。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要なときに確認出来るよう、Guardog V-1またはV-2の取付・取扱説明書とともに大切に保管して下さい。
- ☆本品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子とGuardog V-1またはV-2の取付・取扱説明書を必ず本品に付帯させ、お使いになる人が、いつでも見られるようにして下さい。
- ☆本品は、日本国内でのみご使用頂けます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

-  **危険** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。
-  **警告** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また法律に違反することを意味します。
-  **注意** …… 取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また本品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

はじめに	ページ
■安全に使用するための注意	
□安全上の注意	4
□使用上の注意	4
■安全に取り付けるための注意	
□取り付け上の注意	5
□取り付け可能な車種	5
■商品の特徴	6
■パッケージセット内容	6
■主要部品の名称	
□エンジンスターターキット本体	6
□Guardog V-1/V-2本体MODEスイッチの機能と設定	7
□エンジンスターターキット本体MODEスイッチの機能と設定	7
操作方法	
■エンジンスターターの基本操作	
□エンジンを始動する	8～9
□エンジンを停止する	10
□タイマーによる自動停止	10
□始動検出方式「ガソリン/ディーゼル車」の設定	11
□アイドリング時間の設定	11
□グロー時間の設定	12
□キー始動学習機能の設定	13
□ターボタイマーの設定/解除	13
□ターボタイマーを動作させる	14
□ターボタイマーを停止させる	14
取付方法	
■基本接続図	15
■取り付け作業	
□取り付け前の事前準備	16
□取り付けレイアウトイメージ	16
□車種別専用ハーネスの接続	16
□中継ハーネスの接続	17
□Guardog V-1/V-2本体との接続	18
□中継ハーネスとメインハーネスの接続	18
□エンジンスターターキット本体の取り付け	18
□オートマッチク車の登録	19
□基本動作の確認	20
□仕上げ	20

取付方法(つづき)	ページ
■その他オプション配線方法	
□フットブレーキ検出方式への変更	21
□L端子検出方式への変更	22
□ドアスイッチ配線方法	23
□ボンネットスイッチ(別売)の取り付け	24
その他	
■故障かな?と思ったら	25～26
■仕様	26
■アフターサービスについて	26
■保証書	28

安全に使用するための注意

安全に取り付けるための注意

はじめに

はじめに

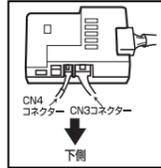
安全上の注意

危険

- 車にボディーカバーなどを掛けた状態で、使用しないで下さい。火災の恐れがあります。
- リモコンでエンジンを始動するときは、車の近くに燃えやすい物がないことを確認して下さい。火災の恐れがあります。
- 密閉されたガレージ内では、使用しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。
- 人(特にお子様)やペットが車内にいるときは、絶対にエンジンを始動しないで下さい。お子様やペットの思わぬ動きが、重大な事故の原因となります。
- 車検・整備などに出す際やボンネットを開けるときは、Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGSパワースイッチ」を切って下さい。重大な事故の原因となります。

警告

- アダプターなどの取り付けで、エンジンスターター本体のリッドを外した場合は、右図のようにCN3、CN4のコネクター面が下を向くように固定して下さい。
- 店頭の「適応車種一覧表 EGSシリーズ Guardogシリーズ」最新版の、V-10の欄に記載されている車へのみ取り付け出来ます。
- 斜面で使用する場合は、必ず輪止めをして下さい。



注意

国産車	本品は、国産車専用です。並行輸入車・外国車へは、取り付け出来ません。		車のバッテリーが弱っている場合や車本来の機能に不備がある場合は、正常に動作しないことがあります。
	本品は、12V車専用です。24V車へは、取り付け出来ません。		本品の分解・塗装・改造は絶対に行わないで下さい。火災・故障の原因となります。
	本品は、防水構造ではありません。水がかからないように注意して下さい。故障の原因となります。		他のエンジンスターターやターボタイマー・盗難警報装置との併用は、絶対にしないで下さい。故障や誤動作の原因となります。

●本品でエンジンをかけているときは、エアコン(ヒーター)以外のスイッチをOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディオなどを併用すると、本品のヒューズが切れることがあります。

●暖気運転を行った直後に運行事前点検を行うと、火傷する恐れがあります。

使用上の注意

- エンジンスターターを使用する際は、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPレンジの位置にして下さい。
- リモコンでエンジンを始動し、走行後エンジンを停止すると、Pレンジ以外でもエンジンキーが抜ける車があります。このような車は、付属の「安全センサーケーブル」でドアスイッチ配線(23ページ)を行い、乗車前に一旦エンジンを停止させて下さい。エンジンキーにて再始動することで、Pレンジ以外でエンジンキーが抜けることはありません。
- オートライト装着車に本品を取り付け、オートの状態で使用した場合、夜間にリモコンでエンジンを始動すると、車のライトが点灯しリモコンでのエンジン停止や自動停止後に消灯しません。バッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態で使用して下さい。一部の車種は「オートライトアダプター」(別売)を取り付けることで、オートの状態でも使用出来るようになります。
- エンジンキーでエンジンを始動したときに充電警告灯が消えない場合は、エンジンスターターの使用を止め、車の点検・整備をして下さい。
- オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車に取り付けた場合、リモコンでのアイドリング中にエンジンキーを差し込んでステアリングは動きません。一旦エンジンを停止させ、エンジンキーにて再始動して下さい。付属の「安全センサーケーブル」をドアスイッチ配線(23ページ)に接続することで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることも出来ます。
- 寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。スターター動作時間3秒以内で、エンジンが始動するように車を整備して下さい。
- バッテリーが弱っている車や改造車は、正常にエンジン始動出来ない場合があります。
- 環境保護のため、必要以上のアイドリングは行わないで下さい。
- エンジンスターター(ターボタイマー含む)は、公道上で使用しないで下さい。公道上での使用は、違法となります。
- ヒューズを交換する際は、ヒューズ部が高温となって、火傷する恐れがあります。また使用中は、ヒューズ周辺の温度が上がります。

取り付け上の注意

危険

- 本品を車に取り付ける際は、必ずエンジンキーを抜き、不用意にエンジンがかからない状態で作業して下さい。重大な事故の原因となります。

警告

- 本品のコネクター部にドライバーなどの金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし、火災・故障の原因となります。
- 本品の本体は、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所に取り付けしないで下さい。事故の原因となります。
- ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近に固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
- 配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
- 取り付け後に本品の本体や配線類が、しっかり固定されているか確認して下さい。固定が不十分だと脱落し、事故の原因となります。

注意

- テスターで電圧を確認する場合を除き、バッテリーケーブルのマイナス端子を外して作業を行って下さい。外さず作業すると配線がショートし、火災・故障の原因となります。外しかたについては、車両搭載装置に悪影響を与える恐れがありますので、お近くのカーディーラーやサービスマニュアルなどで確認して下さい。
- 本品の本体は、防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けて下さい。火災・故障の原因となります。
- 本品の本体は、エアコンの吹き出し口付近に取り付けしないで下さい。高温になったり結露し、故障の原因となります。
- エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が、車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。
- 車のカバーなどを外す際は、部品を破損しないように慎重に作業して下さい。カバーや内張りが元に戻らなくなる恐れがあります。
- アース線を固定する場合、塗装されている金属部分や車の振動などで緩んでしまうような場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。
- 接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

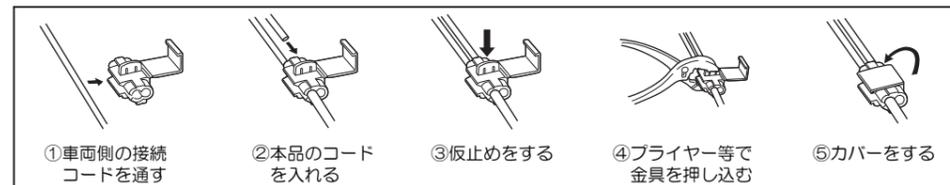
●取り付け工具について

ドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・アナログテスター(検電ランプは使用不可)などの工具は、本品には同梱されていません。別途用意して下さい。

注意

- 必ずテスターを使用して下さい。検電ランプを使用すると、車両の回路破損などの故障の原因となります。

●付属のエレクトロタップ(赤色)の接続方法



取り付け可能な車種

- 店頭の「適応車種一覧表 EGSシリーズ Guardogシリーズ」最新版の、V-10の欄に記載されている車であること。車種によって取り付け出来ない車や別売商品が必要となる車があります。

「適応車種一覧表 EGSシリーズ Guardogシリーズ」最新版の、V-10の欄を確認の上、車に適応した当社の車種別専用ハーネス(別売)を使用して下さい。また他のエンジンスターターやターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは、絶対にしないで下さい。

- スターター動作時間3秒以内で、エンジンが始動出来る車であること。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

- オートマチック車であること。(マニュアル車には取り付け出来ません。)
- 国産車であること。
- 電子燃料噴射装置搭載車であること。(キャブレター車およびエンジン始動時にチョークレバー操作を必要とする車への取り付けは出来ません。)

商品の特徴

主要部品の名称

エンジン

エンジン

エンジンスタート/ストップ機能

Guardog V-1/V-2のリモコンでエンジンの始動/停止が出来ます。

アイドリング時間設定機能

エンジンスタート始動後のアイドリング時間を「5分/20分/30分」のいずれかに設定出来ます。

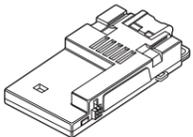
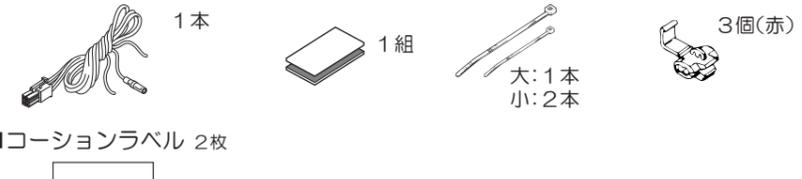
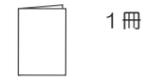
ターボタイマー機能

運転状況により、アフターアイドリング時間を自動的に設定します。

安全機能

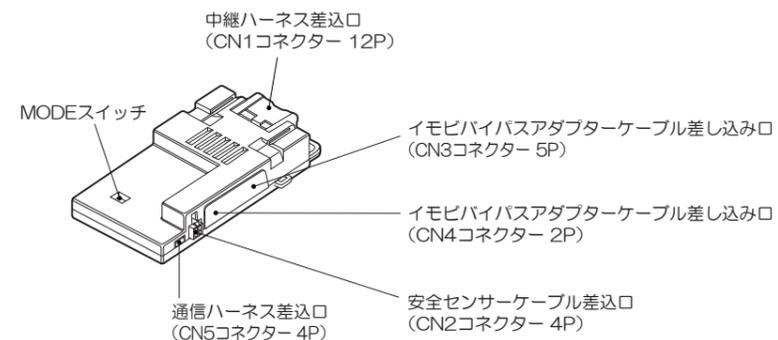
- 車両側のドアスイッチへ本品付属の安全センサーケーブルを接続することにより、リモコンで始動したエンジンをドアを開けると同時に停止させることが出来ます。
- ボンネットスイッチ(別売)を取り付けることにより、ボンネットが開いているときは、リモコンでエンジン始動しないようにすることが出来ます。エンジンルーム内の各種作業を行う際の安全を確保します。

パッケージセット内容 ※接続前に、内容物を確認して下さい。

エンジンスタートキット本体 	ハーネス ■メインハーネス (エンジンスタートキット接続用) 1本 ■中継ハーネス 1本 
付属品セット ■安全センサーケーブル 1本 ■マジックテープ 1組 ■結束バンド 大: 1本 小: 2本 ■エレクトロタップ 3個(赤) ■コーションラベル 2枚 	その他付属品 ■取付・取扱説明書(本書) 1冊 

主要部品の名称

エンジンスタートキット本体

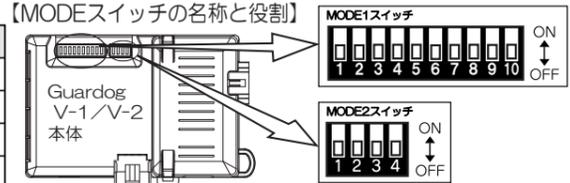


Guardog V-1/V-2本体MODEスイッチの機能と設定

【MODE1スイッチ】

		OFF	ON
1	動作確認音	あり	なし
2	スタンバイモード時間切替	30秒	5秒
3	OP1 センサーレベル	レベル2	レベル1
4	OP2 センサーレベル	レベル3	レベル2
5	車載ホーン配線	しない	する
6	動作確認音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
7	本警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
8	注意警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
9	威嚇警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
10	リモコン登録	通常	登録

【MODEスイッチの名称と役割】



【MODE2スイッチ】

		OFF	ON
1	EGSパワースイッチ	OFF	ON
2	EGS機能設定	設定不可	設定可
3	ガソリン/ディーゼル切替	ガソリン	ディーゼル
4	ターボタイマー	解除	設定

【MODE1スイッチ】

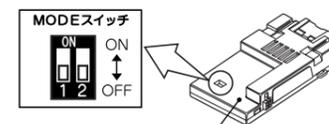
Guardog V-1/V-2の取付・取扱説明書の「本体MODEスイッチの機能と設定」を参照して下さい。

【MODE2スイッチメニュー】

- 1 EGSパワースイッチ
エンジンスタートキットの機能を「ON/OFF」する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、エンジンスタートキットの機能を使用することが出来ます。ご購入時の設定は、EGSパワースイッチOFFとなっています。
メモ 下記の場合は、必ずこのMODEスイッチをOFFして下さい。
●車検・整備などで車を預ける場合。 ●車検・整備を行う場合。 ●この商品の取り扱いを知らない人が運転する場合。
- 2 EGS機能設定
エンジンスタートキットの各種設定操作を行う場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、エンジンスタートキットの各種設定操作を行うことが出来ます。
メモ MODEスイッチがONの場合、エンジンスタートキットの各種設定以外のリモコン操作は出来ません。
- 3 ガソリン/ディーゼル切替
エンジンスタートキットの始動検出方式「ガソリン/ディーゼル」を変更する場合に使用します。取り付けする車に合わせて、始動検出方式を適正化して下さい。ご購入時の設定は、ガソリン(MODEスイッチOFF)となっています。
- 4 ターボタイマー
エンジンスタートキットのターボタイマー機能を「設定/解除」する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、ターボタイマーを使用することが出来ます。ご購入時の設定は、解除(MODEスイッチOFF)となっています。
重要 車検・整備などへ出す際は、必ずこのMODEスイッチをOFFして下さい。

エンジンスタートキット本体MODEスイッチの機能と設定

【MODEスイッチの名称と役割】



	内容	OFF	ON
1	シフト検出	自動	フットブレーキ
2	始動検出	自動	L端子

エンジンスタートキット本体

- 1 シフト検出
シフト検出「自動/フットブレーキ」を変更する場合に使用します。リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合、シフト検出をフットブレーキ(MODEスイッチON)へ変更します。ご購入時の設定は、自動(MODEスイッチOFF)となっています。
- 2 始動検出
始動検出「自動/L端子」を変更する場合に使用します。エンジンがかかっているのに止めてしまう場合やエンジンがかかっていないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合、始動検出をL端子(MODEスイッチON)へ変更します。ご購入時の設定は、自動(MODEスイッチOFF)となっています。

エンジンスターターの基本操作

エンジンを始動する

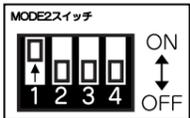
- メモ** エンジンスターターキットでエンジン始動後は、警戒ON操作することが出来ません。エンジンスターターキットでエンジンを始動しているときに警報機を動作させたい場合は、警報機を動作させてからエンジンスターターキットでエンジンを始動して下さい。ただし、ターボタイマーを設定している場合は、エンジンスターターキットでエンジンを始動していても警戒ON操作が出来ます。アイドリング中に働くセンサーは、ドアスイッチセンサーとセンサーレベル1商品(別売)のみです。アイドリングが終了した時点から、停止していたセンサーが警戒を開始します。
- 安全センサーケーブルのセンサーが働いている場合、エンジン始動操作を行うとリモコンは「本体受付エラー(Eと3が交互に表示)」を表示します。
- 複数のリモコン(最大4個)を使用している場合、エンジンの始動/停止が行えるリモコンは、一番最初に登録したリモコン「No.1」のみです。その他のリモコンでは、エンジンの始動/停止は出来ません。リモコンのNo.は、(FUNC)ボタンを長押し「警報履歴の確認」した際に、リモコンの液晶画面に表示されます。



ステップ 1 あらかじめ車を下記の状態にします。

注意 リモコンでエンジンをかけるときは、エアコン(ヒーター)以外のスイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディオなどを併用すると、本品のヒューズが切れることがあります。

- Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS/パワースイッチ」をONにする。
- パーキングブレーキをしっかり引き、シフトレバーをPレンジの位置にする。
- 必要に応じてエアコンをセットする。(他の電装品はOFFにする。)
- オートライト車は、ライトスイッチをOFFにする。
- エンジンキーを抜き、携帯する。



ステップ 2 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

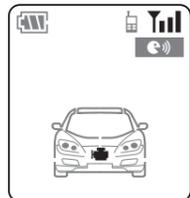


ステップ 3 点滅表示させます。

ステップ 4 点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

液晶画面 【リモコン】「プッ」と鳴り、エンジンの始動操作をしたことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

- 【液晶画面】
- 点滅し、エンジンの始動操作したことを表示。
 - 電波を送信していることをアニメーションで表示。



ステップ 5 リモコンからの電波をエンジンスターターキット本体が受信し、エンジンを始動します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 6 エンジンスターターキット本体からの電波をリモコンが受信すると「ピロリッ」と音が鳴ります。

液晶画面 【リモコン】「ピロリッ」と鳴り、エンジンの始動を開始したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

- 【液晶画面】
- 点滅を継続し、エンジンを始動していることを表示。
 - 電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
 - 操作したリモコンNo.を表示し、消灯。



エンジンスターターの基本操作

エンジンを始動する(つづき)

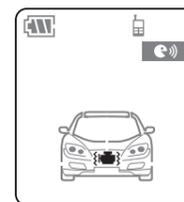
ステップ 7 エンジンの始動が完了すると、エンジンスターターキット本体から「ピピピッ」と音が鳴り、リモコンへエンジン始動完了の電波を送信します。

ステップ 8 エンジンスターターキット本体からの電波をリモコンが受信すると「エンジンを始動しました。」と発声します。

- メモ**
- リモコンによるアイドリング中は、エンジンスターターキット本体から数秒間隔で警告音「ピッ」を鳴らし、エンジンキー以外でのエンジン始動であることをお知らせします。この警告音は、残り時間に連動して徐々に短くなり、自動停止1分前に連続音へと変わり、使用者にまもなくエンジンが停止することをお知らせします。
 - 一度でエンジンがかからなかった場合は、その後2回のリトライ(再始動)を行います。
 - エンジン始動完了の電波を受信出来なかった場合は、リモコンのエンジン始動操作してから約130秒後に強制消灯します。この場合は、3分に一度の定期通信または警報履歴確認操作でエンジン始動の有無を確認出来ます。
 - アイドリング停止後は、警告音が消灯し、エンジンが停止していることをリモコンで確認出来ます。

エンジンがかかった場合

液晶画面 【リモコン】「エンジンを始動しました。」と発声し、エンジンがかかったことをお知らせします。

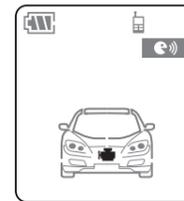


メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 点滅から点灯へ変化し、エンジンがアイドリング中であることを表示。

エンジンがかからなかった場合

液晶画面 【リモコン】 エンジンがかからなかったことを音でお知らせしません。



【液晶画面】 点滅が消灯し、エンジンがかからなかったことを表示。

ステップ 9 走行します。

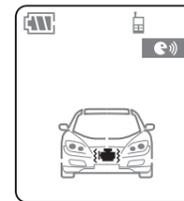
警告 エンジンキーを回す際に、誤ってSTART(STT)の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

注意 車へ乗車する際は、必ず警報機を停止して下さい。

- メモ**
- 走行操作することでエンジンスターターキットの機能が停止し、エンジンスターターキット本体からのプザー音も停止します。
 - 安全センサーケーブルの茶コード(ドアスイッチ配線)を接続している場合は、ドアを開けると同時にエンジンが停止します。エンジンキーにて再始動して下さい。

エンジンキーを差し込み、ONの位置まで回します。シフト操作することでエンジンスターターキットの機能が停止し、通常通り走行出来ます。

液晶画面 【リモコン】 エンジンスターターキットが停止したことを音でお知らせしません。



【液晶画面】 点滅が消灯し、エンジンスターターキットが停止したことを表示。

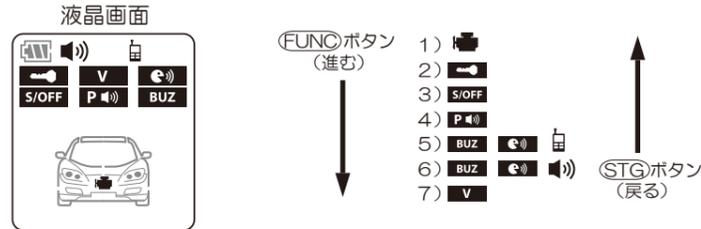
エンジンスターターの基本操作

エンジンを停止する

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



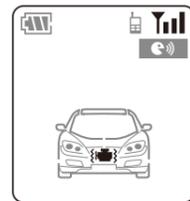
ステップ 2 点滅表示させます。

ステップ 3 点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

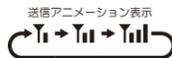
液晶画面 【リモコン】「パッ」と鳴り、エンジンの停止操作をしたことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



【液晶画面】・点滅表示が点滅し、エンジンの停止操作したことを表示。

・Tulが電波を送信していることをアニメーションで表示。

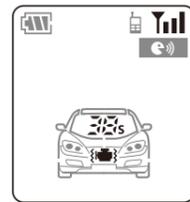


ステップ 4 リモコンからの電波をエンジンスターターキット本体が受信し、エンジンを停止します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 5 エンジンスターターキット本体からの電波をリモコンが受信すると「エンジンを停止しました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】「エンジンを停止しました。」と発声し、エンジンが停止したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



【液晶画面】・点滅表示が消灯し、エンジンを停止したことを表示。

・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

・Tulが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。



タイマーによる自動停止

エンジンスターターキットでエンジンを始動した場合、約20分(初期状態)で自動停止します。アイドリング時間は、「5分/20分/30分」のいずれかに設定することが出来ます。変更する場合は、11ページの「アイドリング時間の設定」を確認して下さい。

エンジンスターターの基本操作

始動検出方式「ガソリン/ディーゼル車」の設定

エンジンスターターキットの始動検出方式「ガソリン/ディーゼル車」を適正化します。ご購入時は、ガソリン車(MODE2スイッチOFF)となっています。



ステップ 1 Guarddog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS パワースイッチ」をOFFにします。

ステップ 2 Guarddog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー3「ガソリン/ディーゼル切替」を設定します。

ガソリン車設定

スイッチ3を「OFF」にします。

ディーゼル車設定

スイッチ3を「ON」にします。



ステップ 3 Guarddog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS パワースイッチ」をONにします。

以上で始動検出方式「ガソリン/ディーゼル車」の設定は、終了です。

アイドリング時間の設定

エンジンスターターキットでエンジンを始動させた場合のアイドリング時間を「5分/20分/30分」のいずれかに設定することが出来ます。ご購入時は、20分に設定されています。

メモ ・時間内に操作が完了しない場合は設定出来ません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直して下さい。
・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターキット本体からの音に従って、設定を行って下さい。



ステップ 1 リモコンの電源を入れます。

ステップ 2 Guarddog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をONにします。

ステップ 3 エンジンキーをONの位置にします。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の設定が出来ません。

ステップ 4 10秒以内にリモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ププッ ププッ…」の3連音が鳴ります。

ステップ 5 30秒以内に次の操作を行います。

(1)「5分」に設定。

リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ブー」という音がして、5分に設定されたことをお知らせします。

(2)「20分」に設定。

リモコンの(FUNC)ボタンを「ポッ ポポッ」と音が鳴るまで長押しします。エンジンスターターキット本体から「ブーブー」という音がして、20分に設定されたことをお知らせします。

(3)「30分」に設定。

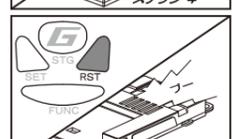
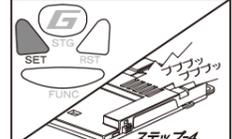
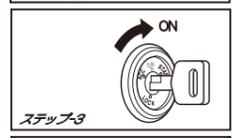
リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ブーブーブー」という音がして、30分に設定されたことをお知らせします。

ステップ 6 エンジンキーをOFFにします。

ステップ 7 Guarddog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をOFFにします。

以上でアイドリング時間の設定は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定20分に戻ります。



エンジンスターターの基本操作

グロー時間の設定

グロー(予熱時間)が必要な車(ディーゼル車など)の場合、グローの時間を「3秒/6秒/9秒」のいずれかに設定することが出来ます。ご購入時は、3秒が設定されています。

- メモ** ・グロー時間とは、エンジンキーをONしてからスターターモーターを回すまでの時間のことです。ガソリン車は通常3秒(初期状態)で使用して下さい。
- ・時間内に操作が完了しない場合は設定出来ません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直して下さい。
- ・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターキット本体からの音に従って、設定を行って下さい。

ステップ 1 リモコンの電源を入れます。

ステップ 2 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をONにします。

ステップ 3 エンジンキーをONの位置にします。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の設定が出来ません。

ステップ 4 10秒以内にリモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

ステップ 5 30秒以内に次の操作を行います。

(1)「6秒」に設定。

リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ピーピー」という音がして、6秒に設定されたことをお知らせします。

(2)「9秒」に設定。

リモコンの(SET)ボタンを「ブッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ピーピー」という音がして、9秒に設定されたことをお知らせします。

(3)「3秒」に設定。

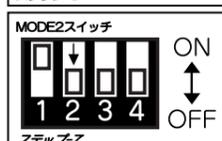
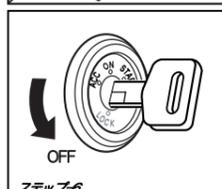
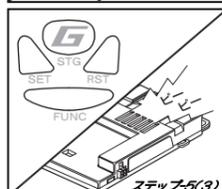
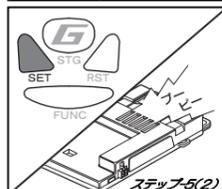
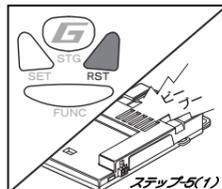
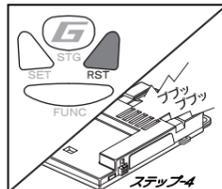
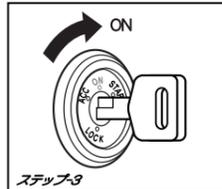
そのまま、30秒間放置します。エンジンスターターキット本体から「ピーピー」という音がして、3秒に設定されたことをお知らせします。

ステップ 6 エンジンキーをOFFにします。

ステップ 7 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をOFFにします。

以上でグロー時間の設定は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定3秒に戻ります。



エンジンスターターの基本操作

キー始動学習機能の設定

スターターモーター駆動時間が短すぎてエンジンがかかりにくい場合には、キー始動学習機能の設定を行って下さい。

- メモ** ・時間内に操作が完了しない場合は設定出来ません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直して下さい。
- ・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターキット本体からの音に従って、設定を行って下さい。

ステップ 1 リモコンの電源を入れます。

ステップ 2 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をONにします。

ステップ 3 エンジンキーをONの位置にします。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の設定が出来ません。

ステップ 4 10秒以内にリモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターキット本体から「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

ステップ 5 30秒以内にエンジンキーでエンジンを始動します。

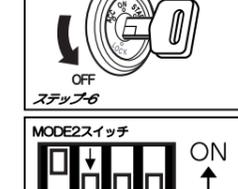
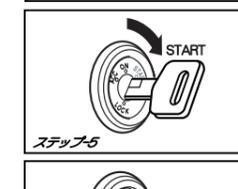
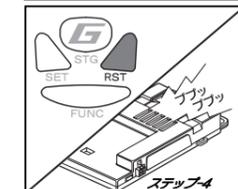
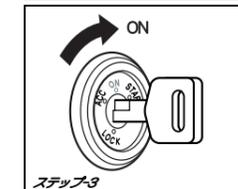
エンジンスターターキット本体から「ブブブブー」と音が鳴り、キー始動学習が行われたことをお知らせします。スターター駆動時間は、0.8~3秒の範囲で学習し、以降のエンジンスターターキット作動時に適用されます。

ステップ 6 エンジンキーをOFFにします。

ステップ 7 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をOFFにします。

以上でキー始動学習機能の設定は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。



ターボタイマーの設定/解除

ターボタイマー機能を使用する場合に設定します。ご購入時は、ターボタイマー解除(MODE2スイッチOFF)となっています。

重要 車検・整備などへ出す際は、必ずこのMODEスイッチをOFFにしてください。

メモ ターボタイマー使用中でも、警戒ON操作が出来ます。アイドル中に働くセンサーは、ドアスイッチセンサーとセンサーレベル1商品(別売)のみです。アイドルが終了した時点から、停止していたセンサーが警戒を開始します。

ステップ 1 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー1「EGSパワースイッチ」をOFFにします。

ステップ 2 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー4「ターボタイマー」を設定します。

ターボタイマー設定

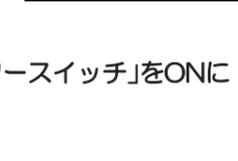
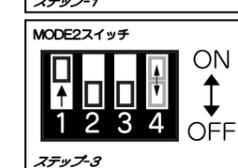
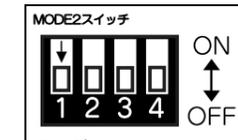
スイッチ4を「ON」にします。

ターボタイマー解除

スイッチ4を「OFF」にします。

ステップ 3 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS/パワースイッチ」をONにします。

以上でターボタイマーの設定/解除は、終了です。



ターボタイマーを動作させる

ターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。動作の確認は、下記手順に従って下さい。

- ステップ 1** エンジンキーまたはリモコンで、エンジンを始動します。
- ステップ 2** 走行します。
30秒以上走行しないと、ターボタイマーは作動しません。
- ステップ 3** 走行終了後シフトレバーをPレンジにし、エンジンキーをOFFにします。

注意 ターボタイマーによるアイドル中には、エアコン(ヒーター)以外のスイッチをOFFにしてください。リヤ熱線や大容量オーディオなどを併用すると、本品のヒューズが切れることがあります。

注意 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPレンジの位置にしてください。

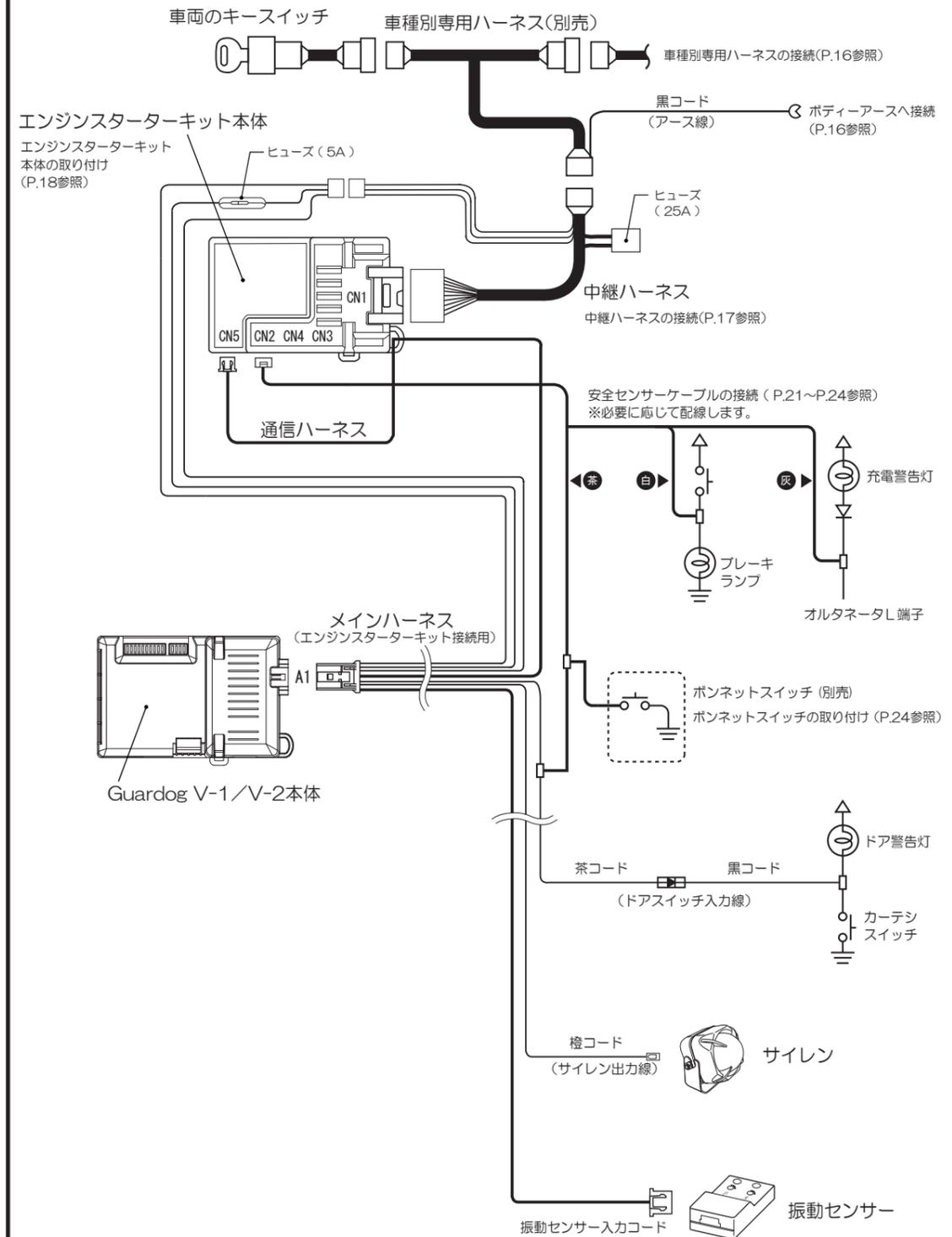
- メモ**
- ・ターボタイマー動作中にエンジンキーが抜けません。このような車は、別売の「日産キーロックアダプター」を使用して下さい。
 - ・正常にターボタイマーが作動しない車があります。このような車は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」を使用して下さい。
 - ・ターボタイマーのアイドル時間は30秒～5分の範囲で自動的に設定されます。
 - ・ターボタイマー動作中は、リモコンの液晶画面にが点灯します。ターボタイマーが停止したことをリモコンの音で確認出来ません。液晶画面での確認となります。

ターボタイマー動作が開始すると、エンジンスターターキット本体から「ブップブップ」というカウントダウン音が鳴り始めます。カウントダウン音は、残り時間に連動して徐々に短くなり、停止直前で連続音へと変わります。

ターボタイマーを停止させる

リモコン操作で、アフターアイドルを途中で停止することが出来ます。10ページの「エンジンを停止する」操作を行って下さい。

注意 エンジンスターターキットを接続する場合、Guardog V-1/V-2付属のメインハーネスは使用しません。本品付属のメインハーネス(エンジンスターターキット接続用)を使用して下さい。



取り付け作業

取り付け作業(つづき)

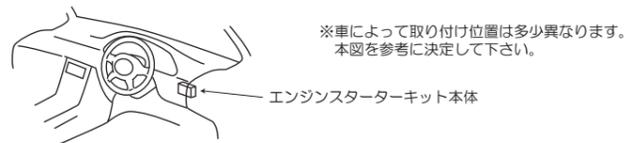
取り付け作業は下記手順に従って行って下さい。

取り付け前の事前準備

- パーキングブレーキをしっかり引き、シフトレバーをPレンジの位置にして下さい。
- エンジンキーは、必ず抜いて下さい。カードキーなどによるエンジン始動システム装着車は、不用意にエンジンがかからないようにして下さい。
- 取り付け工具を用意して下さい。プラスドライバー・プライヤー・ニッパー・スパナ・アナログテスターなど。(工具は同梱されていません。)
- 必要に応じ、カバー類を取り外して下さい。

取り付けレイアウトイメージ

[車室内]



車種別専用ハーネスの接続

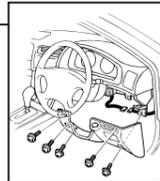
ステップ1 キースイッチの配線カブラーを探します。

配線カブラーの位置は、大別すると次のようになります。詳細は、店頭の「適応車種一覧表 EGSシリーズ Guarddog シリーズ」の最新版を確認して下さい。

メモ キースイッチの配線カブラーは、基本的に車種別専用ハーネスのカブラーと同形状です。それを目安に探して下さい。

■タイプ1

- アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

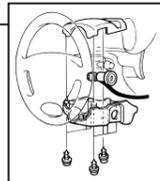


メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってスピーカーカバー内やコインポケットなどに隠しネジが付いている場合があります。

■タイプ2

- ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

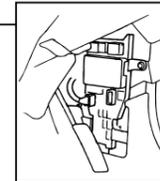


メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってステアリングを90度位回さないとネジが外せない場合があります。

■タイプ3

- ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ。

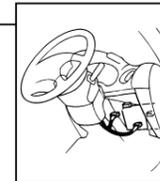


メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

■タイプ4

- 配線カブラーが2箇所に分かれているタイプ。

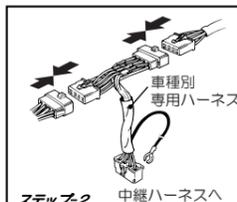


メモ

それぞれの位置が離れている場合もあります。

ステップ2 車種別専用ハーネスを接続します。

探したキースイッチの配線カブラーを外し、車種別専用ハーネスを外したカブラーの間に割り込ませます。



ステップ3 黒コード(アース線)を接続します。

注意 塗装されている金属部分や車の振動などで緩んでしまう場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。

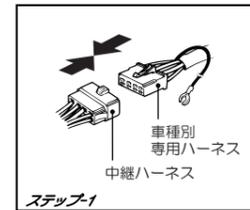
車種別専用ハーネスから出ている黒コードを車体の金属部分へ接続します。



中継ハーネスの接続

ステップ1 車種別専用ハーネスと中継ハーネスを接続します。

車種別専用ハーネス「D481」と中継ハーネスを接続する場合は、下記手順に従って接続して下さい。

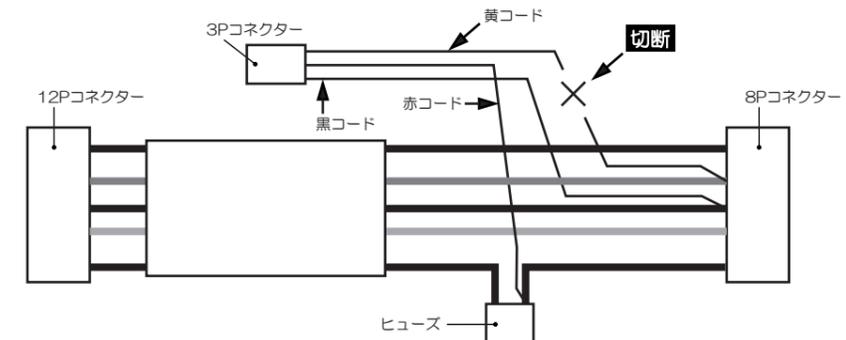


車種別専用ハーネス「D481」を使用する場合

メモ ・この作業を行わない場合、エンジンスターターキットの機能を使用しない期間が約14日間経過すると、必ずスリープモード1またはスリープモード2に入り、リモコンでの操作が出来なくなります。
・「D481」以外の車種別専用ハーネスを接続する場合は、下記作業は不要です。

作業1

中継ハーネスより分岐している3Pコネクターの「黄コード」を下図のように切断します。



作業2

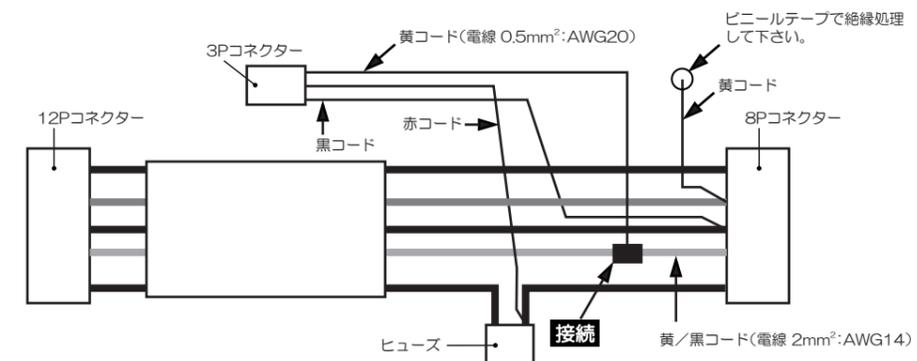
作業1で切断した「黄コード」を下図のように中継ハーネスの「黄/黒コード」へ接続します。

注意

- ・切断した相手側のコードをビニールテープで絶縁処理して下さい。切断したコードが車体の金属部に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。
- ・エレクトロタップで接続する場合は、図中に記載された電線サイズに適応したものを使用して下さい。断線や動作不良の原因となります。
- ・エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

メモ

「黄コード」接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意して下さい。エレクトロタップは、図中に記載された電線サイズの適用品を使用して下さい。推奨エレクトロタップは、エーモン工業製「品番:No.1146」をお奨めします。

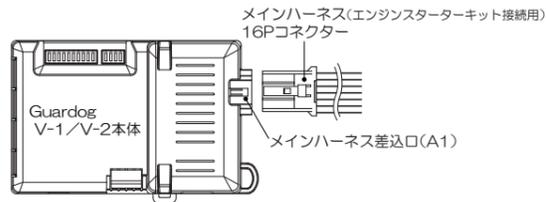


取り付け作業(つづき)

Guardog V-1/V-2本体との接続

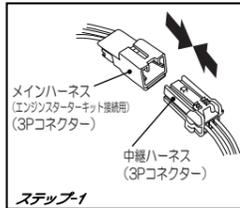
注意 エンジンスターターキットを接続する場合、Guardog V-1/V-2付属のメインハーネスは使用しません。本品付属のメインハーネス(エンジンスターターキット接続用)を使用し、接続します。エンジンスターターキットとの接続以外の各配線については、Guardog V-1/V-2取付・取扱説明書に従って、接続して下さい。

ステップ 1 Guardog V-1/V-2本体とメインハーネス(エンジンスターターキット接続用)を接続します。
Guardog V-1/V-2本体のメインハーネス差込口(A1)へメインハーネスの16Pコネクタを差し込みます。



中継ハーネスとメインハーネスの接続

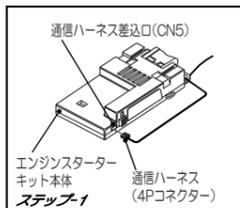
ステップ 1 中継ハーネスの3Pコネクタとメインハーネス(エンジンスターターキット接続用)の3Pコネクタを接続します。



エンジンスターターキット本体の取り付け

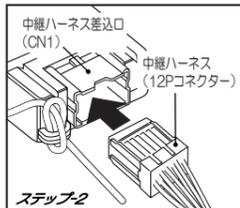
ステップ 1 エンジンスターターキット本体の通信ハーネス差込口(CN5)へメインハーネス(エンジンスターターキット接続用)の通信ハーネス(4Pコネクタ)を接続します。

注意 通信ハーネスは、振動などで外れないようにハーネスガイド穴に通してから、通信ハーネス差込口へ確実に差し込んで下さい。(ステップ2のイラストを参照。)



ステップ 2 エンジンスターターキット本体の中継ハーネス差込口(CN1)へ中継ハーネス(12Pコネクタ)を接続します。

注意 エンジンスターターキット本体と中継ハーネスの接続は、必ず一番最後にして下さい。この取り付け手順を間違えると、約20秒後にエンジンスターターキット本体から警告音「ピピッ ピピッ…」が鳴ります。警告音は、中継ハーネスを外せば鳴り止みます。



ステップ 3 エンジンスターターキット本体を固定します。

警告	・エンジンスターターキット本体は、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には取り付けしないで下さい。事故の原因となります。
注意	・エンジンスターターキット本体は防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けて下さい。 ・火災・故障の原因となります。 ・エンジンスターターキット本体は、エアコンの吹き出し口付近へは取り付けしないで下さい。高温になったり結露し、故障の原因となります。

エンジンスターターキット本体をインストルメントパネルのアンダーカバー内側などに取り付けして下さい。エンジンスターターキット本体が走行中などに動かないよう、付属の結束バンドまたは市販の両面テープを使用して、しっかりと固定して下さい。

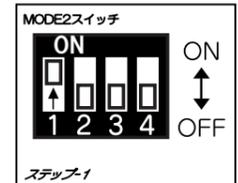
取付方法

取り付け作業(つづき)

オートマチック車の登録

マニュアル車への取り付け防止のため、オートマチック車判別機能を搭載しています。(取り付け時に上記認識作業を行いますので、マニュアル車には取り付け出来ません。)

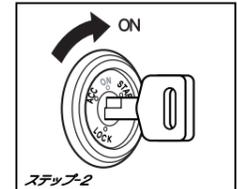
注意 登録作業は、ステップ1から終了までを3分以内に行ってください。なおステップ1からステップ3までの作業は30秒以内に完了して下さい。時間内に作業が完了しなかった場合は、エンジンスターターキット本体のブザー音が途中で鳴り止み、作業が中断されます。このときは、Guardog V-1/V-2本体の「EGSパワースイッチ」を一旦OFFにしてから、もう一度ステップ1からやり直して下さい。



ステップ 1 Guardog V-1/V-2本体MODE2スイッチメニューの1「EGSパワースイッチ」をONにします。

このときエンジンスターターキット本体から「ブーブー ブーブー…」と音が鳴ります。

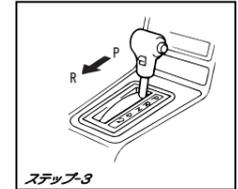
メモ ブザー音が鳴らない場合は、アースが確実に接続されているか、または車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再度確認して下さい。



ステップ 2 エンジンキーを差し込み、ONの位置にします。

このときエンジンスターターキット本体からの音が「ププッ ププッ…」の2連音へと変化します。

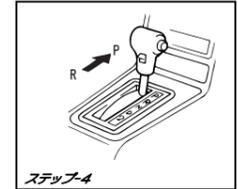
メモ このとき誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合は、Guardog V-1/V-2本体の「EGSパワースイッチ」を一旦OFFにしてから、もう一度ステップ1からやり直して下さい。



ステップ 3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音が変わることを確認して下さい。音が変わらない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。)なお追加配線後は、Guardog V-1/V-2本体の「EGSパワースイッチ」を一旦OFFにしてから、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

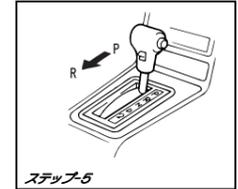
エンジンスターターキット本体からの音が「ププッ ププッ…」の3連音へと変化します。



ステップ 4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このときエンジンスターターキット本体から「ププッ ブー」と音が鳴り、その後「ププッ ププッ…」の2連音へと変化します。

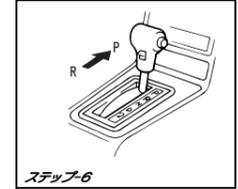
メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音が変わることを確認して下さい。



ステップ 5 再度シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンスターターキット本体からの音が「ププッ ププッ…」の3連音へと変化します。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音が変わることを確認して下さい。



ステップ 6 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このときエンジンスターターキット本体から「ププッ ブー」と音が鳴り、その後「ププッ ププッ…」の間欠音へと変化します。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音が変わることを確認して下さい。



ステップ 7 エンジンキーで、エンジンを始動します。

エンジンスターターキット本体から「ププププー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終了したことをお知らせします。

ステップ 8 キーをOFFにします。

以上でオートマチック車の登録は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外すと、オートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には、再度オートマチック車の登録を行ってください。



取付方法

取り付け作業(つづき)

基本動作の確認

取り付け後、下記手順に従い動作確認を行って下さい。動作しない場合は、25～26ページの「故障かな?と思ったら」を確認して下さい。

ステップ 1 動作確認前の準備

- パーキングブレーキをしっかり引き、シフトレバーをPレンジにする。
- エンジンキーを携帯し、全てのドア、窓を閉め車の外に出る。(エアコン以外の電装品はOFFにする。) またルームランプが消灯していることを確認する。
- リモコンの(RST)ボタンを長押しし、電源を入れる。(電源がOFFになっている場合)

ステップ 2 エンジンを始動させます。

リモコンの(FUNC)ボタンを「ボツ」と音が鳴るまで押し、を点滅表示させ、(SET)ボタンを「ブツ」と音が鳴るまで押して下さい。その後エンジンが始動するか確認して下さい。このとき車両側は表示しません。エンジンがかかるとリモコンの液晶部にが表示し、「エンジンを始動しました。」と発声します。



ステップ 3 シフトセンサーの動作を確認します。

メモ エンジンキーを差さないでシフトレバーが動かせない車もあります。その場合は、エンジンキーをACCの位置まで回して、確認して下さい。

エンジンがかかっている状態で、エンジンキーを差さずにフットブレーキをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくりPレンジからRレンジへ動かして下さい。このときエンジンが止まるか確認して下さい。

エンジンが止まらない場合は、シフト検出がうまく行われていません。フットブレーキ検出方式へ変更して下さい。詳細は、21ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を確認して下さい。

以上で基本動作の確認は、終了です。

仕上げ

ステップ 1 配線したハーネス類を整理します。

	警告	・ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
	注意	・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。固定が不十分だと脱落し、事故の原因となります。
	注意	・接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

ステップ 2 外したカバーなどを元に戻します。

	警告	車のカバーや内張りなどで配線類を挟み込まないようにして下さい。断線やショートし、火災・故障の原因となります。
--	-----------	--

ステップ 3 コーシヨンラベルを貼り付けます。

	危険	必ずエンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作した場合、重大な事故の原因となります。
--	-----------	--

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には、汚れや油分などをきれいに除去して下さい。

ステップ 4 Guardog V-1/V-2 取付・取扱説明書の「設定内容確認表」に必要事項を記入します。

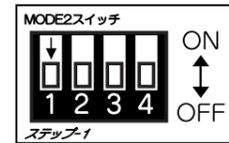
以上で取り付け作業は、終了です。

フットブレーキ検出方式への変更

シフト検出方式の変更方法です。リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合に変更します。

ステップ 1 Guardog V-1/V-2 本体のMODE 2 スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をOFFにします。

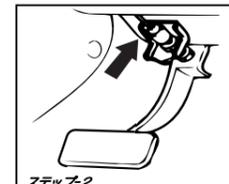
すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスターターキット本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ 2 車のフットブレーキスイッチを探します。

フットブレーキスイッチは、ブレーキペダルの根元付近にあります。

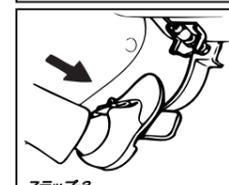
メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキのことではありません。



ステップ 3 ブレーキペダルを踏んだときに12Vを示すコードを探します。

注意 必ずテスターを使用して下さい。

フットブレーキスイッチから出ているコードの内、ブレーキペダルを踏まないときに0V、踏んだときに12Vを示すコードをテスターで探して下さい。



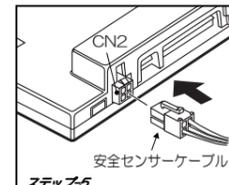
ステップ 4 安全センサーケーブルの白コードを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

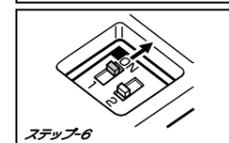
安全センサーケーブルの白コードをステップ3で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

ステップ 5 エンジンスターターキット本体へ接続します。

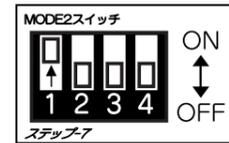
エンジンスターターキット本体の安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクターを差し込みます。



ステップ 6 エンジンスターターキット本体のMODEスイッチメニューの1「シフト検出」をONにします。



ステップ 7 Guardog V-1/V-2 本体のMODE 2 スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をONにします。



ステップ 8 リモコンで始動したエンジンが、フットブレーキを踏んだときに停止するか確認します。

- ① 車に乗り、リモコンでエンジンを始動して下さい。
- ② フットブレーキを踏んだときに、エンジンが停止することを確認して下さい。

ステップ 9 配線したハーネス類を整理します。

	警告	・ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
	注意	・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
	注意	・接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

L 端子検出方式への変更

始動検出方式の変更方法です。エンジンがかかっているのに止めてしまう場合やエンジンがかかっていないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合に変更します。

ステップ 1 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をOFFにします。

すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスターターキット本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



ステップ 2 車のオルタネーターから出ているL端子コードを探します。

注意 必ずテスターを使用して下さい。

オルタネーターから出ているコードの内、イグニッションONの位置でエンジンが停止しているときに約1~3V、エンジンが駆動しているときに約12~14Vを示すコードをテスターで探して下さい。



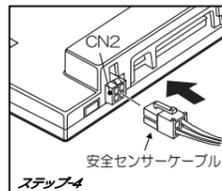
ステップ 3 安全センサーケーブルの灰コードを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

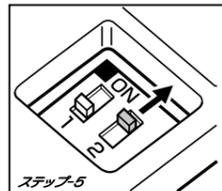
安全センサーケーブルの灰コードをステップ2で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

ステップ 4 エンジンスターターキット本体へ接続します。

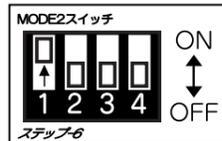
エンジンスターターキット本体の安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクターを差し込みます。



ステップ 5 エンジンスターターキット本体のMODEスイッチメニューの2「始動検出」をONにします。



ステップ 6 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をONにします。



ステップ 7 リモコンでエンジンを始動し、エンジがかかるか確認します。

ステップ 8 配線したハーネス類を整理します。

警告 ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
注意 配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
注意 接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

ドアスイッチ配線方法

ドアスイッチへ安全センサーケーブルを配線することにより、リモコンで始動したエンジンをドアを開けると同時に停止させることができます。

ステップ 1 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をOFFにします。

すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスターターキット本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。

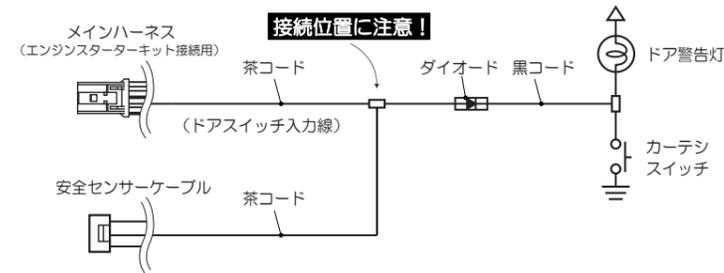


ステップ 2 安全センサーケーブルの茶コードを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

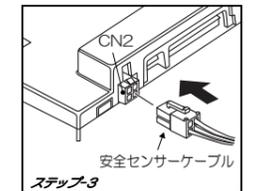
注意 安全センサーケーブルの茶コードをメインハーネス(エンジンスターターキット接続用)内の茶コード(ドアスイッチ入力線)のダイオードとGuardog V-1/V-2本体に接続するコネクターの間に接続して下さい。

安全センサーケーブルの茶コード先端のギボシ端子部を切断し、メインハーネス(エンジンスターターキット接続用)内の茶コード(ドアスイッチ入力線)に付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。



ステップ 3 エンジンスターターキット本体へ接続します。

エンジンスターターキット本体の安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクターを差し込みます。



ステップ 4 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をONにします。



ステップ 5 リモコンで始動したエンジンが、ドアを開けると同時に停止するか確認します。

①車のドアを閉め、リモコンでエンジンを始動させて下さい。

メモ 残光式ルームランプ付き車は、ドアを閉めてルームランプが完全に消灯してから数秒後にリモコンでエンジンを始動して下さい。

②ドアを開け、エンジンが停止することを確認して下さい。

ステップ 6 配線したハーネス類を整理します。

警告 ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
注意 配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
注意 接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

ボンネットスイッチ(別売)の取り付け

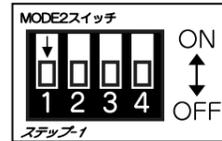
故障かな?と思ったら

ボンネットスイッチを取り付けることにより、ボンネットが開いているときは、リモコンでエンジン始動しないようにすることが出来ます。エンジンルーム内の各種作業を行う際の安全を確保します。

✕モ ボンネットスイッチ接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適用品を使用して下さい。

ステップ 1 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をOFFにします。

すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスタートキット本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



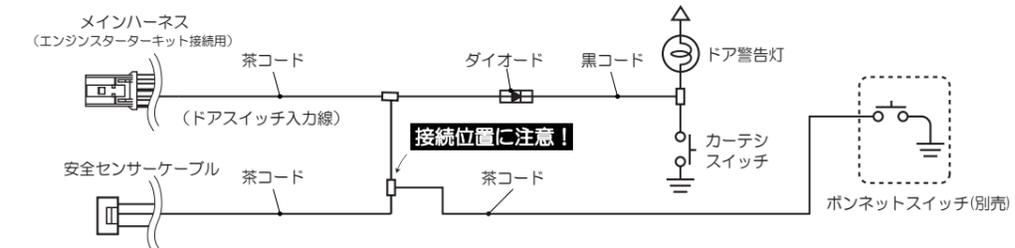
ステップ 2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチの取付・取扱説明書に従って、取り付けして下さい。

ステップ 3 ボンネットスイッチの茶コードを接続します。

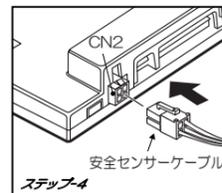
注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

ボンネットスイッチの茶コードを安全センサーケーブルの茶コードにエレクトロタップで接続します。

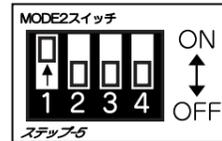


ステップ 4 エンジンスタートキット本体へ接続します。

エンジンスタートキット本体の安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクターを差し込みます。



ステップ 5 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS パワースイッチ」をONにします。



ステップ 6 ボンネットを開けた状態で、リモコンでエンジンが始動しないか確認します。

①車のドアを開け、ボンネットを開けた状態にして下さい。

②リモコンでエンジンが始動しないことを確認して下さい。

✕モ 残光式ルームランプ付き車は、ドアを開けてルームランプが完全に消灯してから数秒後にリモコンでエンジンを始動して下さい。

ステップ 7 配線したハーネス類を整理します。

警告 ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
注意 配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
 ・接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

このような時	チェックしてください	処 置	参照ページ
リモコンは送信するがエンジン始動せず、「E2」エラー表示になる。	アンテナユニットのハーネスがエンジンスタートキット本体の通信ハーネス差込口(CN5)に接続されていませんか?	接続先を確認して下さい。アンテナユニットのハーネスがエンジンスタートキット本体の通信ハーネス差込み口(CN5)に接続されている場合は、通信出来ません。	18
ズとズが交互に点滅表示。	【車種別専用ハーネス「D481」の場合】中継ハーネス(3Pコネクターの内の黄コード)は、正しく配線されていますか?	配線先を確認して下さい。黄コードが正しく配線されていないと、エンジンスタートキットの機能を使用しない期間が約14日間経過すると、必ずスリープモード1またはスリープモード2に入り、リモコンでの操作が出来なくなります。	17
	ヒューズが切れていませんか?	ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換して下さい。	-
リモコンは送信するがエンジン始動せず、「E3」エラー表示になる。	オートマチック車の登録はされていますか?	オートマチック車の登録がされているか確認して下さい。	19
ズとズが交互に点滅表示。	バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか? ヒューズ交換、車種別専用ハーネスとのケーブル脱着およびアース線(黒コード)の再接続を行いましたか?	バッテリーを外したり、中継ハーネスおよび車種別専用ハーネスの黒コード(アース線)を外した場合は、オートマチック車の再登録が必要です。 【オートマチック車の登録有無の確認方法】 Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をOFF→NOにすると、エンジンスタートキット本体から下記ブザー音が鳴ります。 ①「フッ フッ フッ」 :登録されています。 ②「ブーブー ブーブー…」 :登録されていません。	
	Guardog V-1/V-2本体のMODE2スイッチの1「EGS/パワースイッチ」がOFFになっていませんか?	MODEスイッチをONにして下さい。	7
	Guardog V-1/V-2本体のMODEスイッチ2の2「EGS機能設定」がONになっていませんか?	MODEスイッチをOFFにして下さい。	7
	複数登録されたリモコンで操作していませんか?	エンジンの始動/停止が行えるリモコンは、一番最初に登録したリモコン「No.1」のみです。その他のリモコン操作では、Guardog V-1/V-2本体が受け付けません。	8
	通信ハーネスが未接続あるいは断線していませんか?	確実に接続されているか、あるいは断線していないか確認して下さい。	18
	ドアが開いていませんか? (付属の安全センサーケーブルの配線を行った場合。)	ドアあるいはボンネットを開けて下さい。安全センサーケーブルのセンサーが動いていると、Guardog V-1/V-2本体受け付けません。	-
	ボンネットが開いていませんか? (ボンネットスイッチ(別売)を取り付けた場合。)		-
	エンジンスタートキットでエンジン始動後、リモコン操作で再度エンジン始動操作をしていませんか?	エンジンスタートキットでエンジン始動後は、エンジン始動操作をGuardog V-1/V-2本体が受け付けません。	-
	エンジンキーがONになっていませんか?	エンジンキーを抜いて下さい。	-
リモコンでエンジン始動すると、メーターパネルは点灯するが始動しない。またはエンジンスタートキット本体から「ピーピーピー」と音がして停止してしまう。	車のシフトがPレンジ以外に入っていませんか? 車のバッテリーが弱っていませんか? 車種別専用ハーネスのアース線(黒コード)は車体の金属部に確実に接続されていますか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。 車のバッテリーを点検し、正常な状態にして下さい。 適切な場所に接続し直して下さい。	- - 16
リモコンでエンジン始動操作をすると始動動作を行うが、エンジンはかからない。	オルタネーター(L端子)配線を行いましたか? 車のバッテリーが弱っていませんか?	オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。 車のバッテリーを点検し、正常な状態にして下さい。	22 -
リモコンでエンジン始動操作をしてもエンジンが始動せず、エンジンスタートキット本体から警告音「ピーピー…」が鳴り続ける。	車のシフトがPレンジ以外に入っていませんか? 車種別専用ハーネスの品番は正しいですか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。 店頭の「適応車種一覧表 EGSシリーズ Guardogシリーズ」最新版の、V-10の欄を再度確認して下さい。車の車種名・年式・型式を照会後、品番が正しい場合は、当社技術サービスまでお問い合わせ下さい。 ※警告音はエンジンキーをONにすれば停止します。	- -

故障かな?と思ったら

このような時	チェックしてください	処 置	参照ページ
ターボタイマーが動作しない。	フットブレーキを踏んだままエンジンキーをOFFにしていますか? (フットブレーキ配線を行った場合。)	フットブレーキを踏まずにエンジンキーをOFFして下さい。	—
	車のシフトがPレンジ以外に入っていませんか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。	—
	ターボタイマーの設定を行っていますか?	ターボタイマーの設定を行って下さい。	13
	エンジンを30秒以上かけましたか?	30秒以上かけて下さい。	—

仕 様

●エンジンスターターキット本体

動作温度範囲	: -20℃~+70℃
電源電圧	: DC12V(DC9V~16V)
消費電流 (DC12V時)	: 待機時 3.5mA以下 スリープモード時 1.6mA以下
重量	: 120g
外観寸法 <H×W×D>	: 26.5mm×118mm×75mm

※仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

●使用中に正常に動作しなくなった場合

本書25~26ページの「故障かな?と思ったら」を確認して下さい。
該当箇所の確認を行っても改善が見られない場合は、お買い上げ店または当社技術サービスにお問い合わせ下さい。

●修理について

下記商品に不具合内容を記入したメモを添えて、お買い上げの販売店に依頼して下さい。
エンジンスターターキット本体

なお保証範囲については、保証規定をご確認下さい。
保証期間を過ぎた場合や使用上の不注意による故障などは、保証の対象となりません。

保証範囲や条件など詳しい内容について、ご説明します。必ずお読み下さい。

〈保証規定〉

本品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されております。お客様のご使用中に、万一故障が発生した場合は、本保証書の記載内容に基づき、無償修理させていただきます。

修理の際は、下記商品に不具合内容を記入したメモを添えて、お買い上げの販売店に依頼して下さい。
エンジンスターターキット本体

●本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

●本保証書は再発行致しませんので、大切に保管して下さい。
なお下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象となりません。

1. お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
2. 本品を分解・改造した形跡が認められた場合。
3. 地震・台風・水害などの天災ならびに火災・事故・その他紛争などによる損傷が認められた場合。
4. 適応外車両へのお取り付けの場合。
5. 当社指定以外の商品を本品に取り付けたことにより、発生した故障・損害など。
6. 取付・取扱説明書中の注意事項を守らなかったことにより、発生した故障・損害など。
7. 保証書が提示されない場合や記載事項に不足がある場合。

●修理によって生じた交換部品は、原則としてお返し致しません。

●本品の製造を終了してから3年を過ぎた場合、使用部品の製造中止などにより、修理が出来ない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

エンジンスターターキット

STK-01

取付・取扱説明書

製造・販売元 株式会社 **ミツバサンコーワ**

〒376-0102 群馬県みどり市大間々町桐原3546-1

●取り付けなど、技術的な問い合わせ窓口:株式会社ミツバサンコーワ 技術サービス

TEL. 0277-72-4588

Y-028-004-A